

ルカによる福音書16章8-9節 「抜け目ない管理」

1A 不正な管理人への賞賛 1-7

1B 主人の寛大さへの信頼

2B 行動意欲

3B 将来性

2A 永遠の住まいのための富 8-9

1B 世の子らの賢さ

2B 悪い時代

3B 賢い歩み

4B 永遠の報い

3A 悔い改めと信仰

本文

ルカによる福音書 16 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、15 章まで来ましたが、午後礼拝で 16 章を見ていきます。今朝は、8-9 節に注目したいと思います。「8 主人は、不正な管理人が賢く行動したのをほめた。この世の子らは、自分と同じ時代の人々の扱いについては、光の子らよりも賢いのである。9 わたしはあなたがたに言います。不正の富で、自分のために友をつくりなさい。そうすれば、富がなくなったとき、彼らがあなたがたを永遠の住まいに迎えてくれます。」

ここは、多くの人にとって難解な箇所です。イエス様が、主人に仕える僕たる管理人が、不正を働いているのにそれでも、彼のことをほめているからです。そして、「不正の富で、自分のために友をつくりなさい。」なんて言われています。表面的に読めば、まるでマネーロンダリング(資金洗浄)でもして金を儲けなさい、そのために人間関係作りにも励むように、なんていう不法行為を勧めているようにも聞こえます。

けれども、聖書は私たちに意表をつかせる話が多いですね。イエス様は、敢えて極端な例を使って、ご自分のお語りになりたい点を際立たせています。実は、この箇所は前回の学び、あまりにも有名な「放蕩息子」の続きなのです。そこに出た、放蕩息子の父親が裕福な人で、弟息子に対してあまりにも寛大でした。弟息子が、あまりにも親知らずな人間であることも知りました。なんと生前の遺産相続を父親に要求したのですから、当時のユダヤ社会では殺されてもしかたがない状況だったのです。けれども、彼が我に帰って、遠い国から戻って来た時には、彼を抱いて口づけし、息子として迎える祝宴さえ開きました。ここに、神の大いなる愛と恵みがあります。神は、私たちがどんなに不正を働き、どんなに悪を行っていたとしても、私たちが我に帰って、ご自分のところに戻

って来る者を決して拒まれません。とてつもなく憐れみ深く、恵み深い方なのです。そして、その弟息子も、かなり大胆です。父は裕福な人だし、とても寛大だということを知っていたので、雇い人として受け入れてくれるだろう、憐れんでくれるだろうと思っていました。豚のいなご豆を食べたいほどで落ちぶれていたのに、それでも父のところに戻りました。

1A 不正な管理人への賞賛 1-7

実は、不正の管理人の喩えも、同じ路線でイエス様は語っておられるのです。主人は寛大な人間で、この管理人が不正を働いていたのですが、さらに不正を働き詐欺行為をするのですが、そこにある彼の抜け目なさは、少し、放蕩息子に似た部分があるのです。せつかくなので、ざっと 1 節から 7 節までを読んでみましょう。

1 イエスは弟子たちに対しても、次のように語られた。「ある金持ちに一人の管理人がいた。この管理人が主人の財産を無駄遣いしている、という訴えが主人にあった。2 主人は彼を呼んで言った。『おまえについて聞いたこの話は何なのか。会計の報告を出しなさい。もうおまえに、管理を任せておくわけにはいかない。』3 管理人は心の中で考えた。『どうしよう。主人は私から管理の仕事を取り上げようとしている。土を掘る力はないし、物乞いをするのは恥ずかしい。4 分かった、こうしよう。管理の仕事をやめさせられても、人々が私を家に迎えてくれるようにすればよいのだ。』5 そこで彼は、主人の債務者たちを一人ひとり呼んで、最初の人に、『私の主人に、いくら借りがありますか』と言った。6 その人は『油百バテ』と答えた。すると彼は、『あなたの証文を受け取り、座ってすぐに五十と書きなさい』と言った。7 それから別のの人に、『あなたは、いくら借りがありますか』と言うと、その人は『小麦百コル』と答えた。彼は、『あなたの証文を受け取り、八十と書きなさい』と言った。

1B 主人の寛大さへの信頼

ここの喩え話には、初めから少し不自然なことが実は起こっています。主人は、「もうおまえに、管理を任せておくわけにはいかない。」と言っています。これは解雇したという宣言と同じです。けれども、当時、同じようなことを行ったら、この管理者を裁判所に訴えて、牢屋に投げ入れることもできましたし、そうやっていたことでしょう。あるいは奴隷にして売ることもできました。それほど、厳しい処置をしても全く正しかったような時代なのですが、しかし解雇にだけしたというのは、この主人がかなり寛大だということが分かります。

そこからこの管理人がいかに、抜け目ないことを行なったかを見て取ることができます。彼は、主人の債務者たちを集めました。そしてそれぞれの借金を減額します。油百バテは、今の価値ですと千万円ぐらいですが、つまり五百万円免除されたことになります。小麦も同じぐらいの減額、五百万円ぐらいです。こうやって恩を売って、自分が解雇された後も、その人たちに雇ってもらうか、あるいは世間は狭いですから、他の人々にも良い噂が流れて、彼が雇ってもらうようにするために

した。けれども、主人が怒って彼自身が害を受けない対策を彼は前もって練っていたのです。

というのは、債務が減額された人たちは、こんなにもこの債権者は寛大なのかと大いに喜んで、噂がたちまち広まっているだろうからです。中東では、面子が非常に大事です。そして、今のものさしでは、搾取だといっても当たり前の社会の中で、こうやって免除するということは、ものすごい良い知らせであり、主人の面子を立てたことになります。ですから、主人とて、もう後戻りできないのです。管理人を罰することはできません。主人に評判は上がるし、管理人も主人の名で減額にしたのですから、彼の顔も立っています。ウィン・ウインの関係にしてしまったのです！彼の主人の財産の乱費については、主人はそもそも、彼個人に話して対峙したのですから、中身はばれていないのです。これが、主人が彼の狡猾さ、抜け目なさに対して、怒りようにも怒れない、あっぱれと言わせてしまう背景であります。

ですから、実は放蕩息子の父と通じる部分があります。放蕩息子も、父親の寛大さを知っていたので、それに信頼して戻りました。そして不正の管理人は、主人が寛大であることを知っていて、それでさらなる不正、詐欺を行っていますが、主人が自分を罰することはないであろうということを予測して、それに信頼し、賭けてみて、こんな行動に移ったのです。

2B 行動意欲

そして不正の管理人について、注目すべきは意欲的に行動していることです。行動意欲が強いことです。彼は帳簿を主人に速やかに返却しなければいけないのを知っていました。そして、この家から出て行ったあと、自分の職をどうすればよいか考えました。今とあまり変わらないですね、土を掘る力がないといっていますが、土方のことですね。そして物乞いですが、これは体の不自由な人が当時、するようなものでした。ですから、そんなことはできません。そうやって、すぐに今、与えられている能力や機会を十分に用いて、その立場を活用して行動に移したのです。今あるものを、積極果敢に活用し、運用するというのは、他の喩えでもイエス様は僕の姿としてほめておられます。そうです、タラントの喩えです。五タラントの人が投資運用して主人が戻るまでに十タラントにしました。二タラントを受け取った人が四タラントにしました。その時、主人はとても喜びました、つまり主は、与えられている物、その機会を十分に用いることをとても喜ぶということです。

3B 将来性

そしてこの管理人は、将来のことを考えて、行動に移しました。自分がいかに雇用されるか、全くそんな機会が見つからない中で、自分からその機会を作ってしまったわけです。ここでは何ふり構わず、プライドを捨てて、自分がその場で出来ることを将来のために動いて行きました。ここからの話は、かなり世的になります。けれども、イエス様も大胆に世のことを譬えに使って話しておられますからよいでしょう。

ホリエモンが、貧しさについてかなり辛らつに話していますね。「貧困から脱出できないのは、お金がないからじゃなくて、バカなのが原因じゃない？」と言ってしまっています。(この頃、バカという言葉があまりにも頻繁に使われるので、とても嫌な気持ちがありますが、それは置いておいて…) 例えば母子家庭で 3 人子供がいる家庭だったら、生活保護費や児童扶養手当をもらっていたら 20 万円けれども、これだけもらえば十分だ。例えば、携帯電話を毎月 3 万円近く使っているけれども、格安 SIM という知識を持っていないというのです。お金がないのではなく、この場合は知識がなかったということです。そしてお金を稼いでも、使い方の知識がないと幸せにはならない。どのようにお金を使うべきかを考えなければ、いつまでもお金に踊らされてしまう、と言っています。¹また、2ちゃんねるを運営していた、ひろゆきさんも同じことを言っていて、「情報が足りない」ことを話しています。東京都は、裸電球を電気屋に持っていくと、LEDに取り替えてくれる。その LED は三千円だから、100 円の裸電球を他のお店で買って、それを三千円の LED に変えたら、2900 円もうけられる。そこで、ひろゆきさんは、「私は暇しているから、こんなこと考えられるし、情報も入ってくるんだけど、真面目に働いていると情報が入らないから、真面目に貧乏になっているんじゃないのか。」と言っていました。²そして、ホリエモンに戻りますが、そもそも、紙幣自体には価値がないので、「カネは、信用を数値化した者にしか過ぎない。その紙幣自体にはほとんど価値もないのだ。」とまで言っています。その信用こそが本質であると言っています。

まさに、これでこの管理人の視点ですね。自分の置かれた状況の中で、どのように信用を勝ち得ればよいか考えていました。それが、証文の金額を減らすということだったのです。そうして債務のある人々から信頼を勝ち取り、また主人も、大きな損はしましたが面子は崩さないでいるようにさせました。ここまで与えられている機会を用いて、将来のために備えたのです。

2A 永遠の住まいのための富 8-9

1B 世の子らの賢さ

そういったところから、イエス様がお語りになったのが、今朝の本文です。もう一度、8 節を見てください、「主人は、不正な管理人が賢く行動したのをほめた。この世の子らは、自分と同じ時代の人々の扱いについては、光の子らよりも賢いのである。」ここの「賢い」という言葉は、第三版以前の改訂版だと、「抜け目ない」と訳されていました。私は、こっちのほうが好きです。抜け目が無いというほうが、賢くても、どのような賢さかをもっとはっきり言い表しているからです。

イエス様が興味深いことを語られていますね、世の子らのほうが、光の子らよりも賢いとのことですね。今、私はホリエモンとひろゆきさんのことを取り上げましたが、私たちキリスト者は、そういったお金の話とかになると、一つ誤った態度があります。「それは世のことだ」とするのです。それは無知の世界であり、神はそこにはおられない、神を知らないからお金のことばかり考えられるのだ、

¹ <http://u-note.me/note/47506993>

² <https://youtu.be/BHiJSvGJZMc>

とするのです。世は世のことだ、そして主のことは主のことだとして、二つの世界を分けてしまうのです。これは聖書の世界観ではありません。しかし、私たちがこの世で生きている理由を考えてみてください。「**自分と同じ時代の人々**」に対して証しを立てています。この人々に対して、世の光として輝くように召されています。世の人たちは、そのような人々に対してどのように扱っていくか、抜け目なく考えています。しかし、光として召されている私たちのほうは、それほどまでに賢く考えていません。ここが、イエス様が強くお語りになりたかったことです。

主の声は、全地に響いています。つまり、私たちの教会の世界だけでなく、教会の外にも広く、くまなく響いています。ゆえにイエス様は、私たちに喩えを語られる時に、パリサイ派のような分離的な考えではなく、人々の生活の中に神の知恵があることを教えておられるのです。「箴 30:24-この地上には小さいものが四つある。それは知恵者中の知恵者だ。蟻は力のないものたちだが、夏のうちに食糧を確保する。岩だぬきは強くないものたちだが、その巣を岩間に設ける。いなごには王はいないが、みな隊を組んで出陣する。ヤモリは手で捕まえられるが、王の宮殿にいる。」蟻を見て、そこに知恵があります。そして、岩だぬき、いなご、そしてヤモリにも知恵があります。知恵者中の知恵者だとまで言っています。蟻については、今朝のテーマと同じ主題ですね、「将来のために今から用意する」という知恵です。

2B 悪い時代

エペソ 5 章 15-16 節を読みます、「ですから、自分がどのように歩んでいるか、あなたがたは細かく注意を払いなさい。知恵のない者としてではなく、知恵のある者として、機会を十分に活かさない。悪い時代だからです。」悪い時代だと言っています。終わりの日がそのようになることを、イエス様は教えられました(黙示 22:10-11 等)。悪い時代だと、私たちはとかく、分離し、孤立し、自分たちだけが正しく生きていければよいのだ、と考えてしまいがちです。しかし、それは終わりの日に生きるキリスト者の姿ではありません。むしろ、世にあって光りなさいと命じられました。世から離れるのではなく、むしろ世の中に入って、そこで世に属していない生き方、光の生き方をしなさいと命じられているのです。

3B 賢い歩み

それで、今、自分に与えられている財産、時間、置かれている地位や状況など、そういったものをよく考えて、いかに活用し、賢く歩んでいけばよいか考えていく必要があります。アメリカに、グレッグ・ローリーと言う伝道者がいます。もう 30 年間、伝道集会を南カリフォルニアで行なっています。カルバリーチャペルの牧師でもあります。「なんで毎年、懲りずに同じことをしているのか?と聞かれます。私はできるだけ多くの人を天国に連れて行きたいのです。」彼の伝道方法は基本変わりませんが、けれども、どんどんハイテクを使った技術とか、ミュージシャンも若者向け、万人向けする人々が来て、その伝え方は少しずつ変わっています。しかし、語っている内容は、全くぶれない福音です。その間に、彼の長男が交通事故で天に召されました。それで彼はますます、天国

が身近なものとなりました。ある時に私も、グレッグが何か変わったと思いました。それは、「それほど時間がない。主が来られるまで時間がない。だから、何とかして人々に福音で届けたい。」という情熱を感じたのです。

今ある時間、今ある財産、今ある関係、今あるもので、いかに将来の御国のために賢く使っていくか？ということなんですね。

4B 永遠の報い

9節で、イエス様が言われている通りです。「わたしはあなたがたに言います。不正の富で、自分のために友をつくりなさい。そうすれば、富がなくなったとき、彼らがあなたがたを永遠の住まいに迎えてくれます。」

イエス様は先ほどの、不正の管理人の話の延長で話しておられます。不正の富とは、不正の管理人が引用した財産のことです。けれども、同時に不正が付きまといやすい富ということ。しかし私たちは、富そのものは中立であることを知っています。だからこそ、富、お金については、しっかりと知っていないといけないのです。それをどう使っていくのか？そして、「自分のために友をつくりなさい」というのは、将来のために富を用いなさいということ。その将来とは、永遠の住まいです。富がなくなるのは、死ぬ時です。死ぬ時に、私たちは何一つ、持っていくことはできません。仏式の葬儀では、棺桶の中に何か持っていくものを入れますね。しかし、それはできません、霊のみが神のところに行きます。しかし、富について自分はどのように用いたかについて、それが永遠の住まいにおける報いとなっているのだということです。

3A 悔い改めと信仰

私たちは富、財産だけではありません。自分の時間、自分の能力、自分の全てについて、実はそれらをどうするか？と言うことが問われています。「Ⅱコリ 5:10 私たちはみな、善であれ悪であれ、それぞれ肉体においてした行いに応じて報いを受けるために、キリストのさばきの座の前に現れなければならないのです。」神の裁きにおいて、自分が肉体においてしたことが、すべて報いがあるのだと言います。永遠の住まいにとって、最も大事な決断は、イエスを自分の罪からの救い主、自分の人生の主とすることです。自分が、これまで行ってきた悪を思い直し、すべては神が支配していたのだと認め、自分のした悪いこと、罪のためにキリストが身代わりに死んでくださったことを受け入れ、信じます。そして三日目に甦ったことを信じ、受け入れるのです。それこそが、永遠の住まいに住むための準備になります。